

▼病院壕内の『ニオイ』再現▼

町では平成26年度事業で、沖縄戦で陸軍病院として利用されていた黄金森の壕内に充満していたとされる“ニオイ”を再現しました。

現在、一般公開している20号壕では、火炎放射攻撃で焼き払われた様子を残している真っ黒に焼け焦げた天井や壁、柱跡などを見てもったり、当時の壕内での手術や負傷兵の様子をガイドさんが見学者に伝えながら、戦争や平和、命について考えてもらえるように案内しています。

私たちには五感(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)があります。壕の見学において、これまでは、「見る(視覚)」ことと、「聞く(聴覚)」ことを伝える手段としていました。残念ながら、「味わう(味覚)」ことと「触る(触覚)」ことは、土を掘り込んで、しかも戦時中に強烈な火炎放射攻撃を受けて脆弱になった壕では体験することができません。しかし、「嗅ぐ(嗅覚)」ことはできるのではないかと考えました。そこで、陸軍病院壕関係者の証言を読んでもと、『壕の中はムシムシしている中で色々な臭いが入りみだれ…』『鼻をつく悪臭に吐き気を催し…』『壕内は死臭で…』など、ニオイに関する情報を多くの体験者が残していました。

となると次は、そのニオイを再現してくれる人を探さなければなりません。インターネットを活用して、ニオイをキーワードに業者さんを検索してはメールでこちらの思いと事業内容を伝えることをくり返しましたが、全ての業者さんがニオイを作るほうではなく、消す側の“消臭”の仕事をしているという理由で断られました。落胆している中、ニオイの再現自体が無理なことなのかとあきらめの心境でいるところに、最後に送ったメールの回答が電話で来ました。「協力できる」と埼玉県にある(有)香りのデザイン研究所所長の吉武氏からの前向きな言葉に勇気づけられ、事業を進めることになりました。

活字として残された体験者の証言だけを参考にして当時のニオイを再現することは不可能であるため、8月から元ひめゆり学徒隊の方々や、当時、陸軍病院壕に避難した経験を持つ方からニオイについての聞き取り調査を行って、記憶の奥底に残るニオイの情報を基に試作品を作りました。それを聞き取り調査に協力していただいた体験者に嗅いでもらい、修正を繰り返して12月には「当時の壕内に充満していたニオイにだいぶ近い」との感想を体験者からいただき、1月26日から公開を開始しています。

再現したニオイの公開は、20号壕入口の屋外で行っています。「再現したニオイを嗅ぐ」とことと「壕内を見学する」とことはセットです。ニオイは、戦時中の劣悪な環境下にあった壕内で発生したものであるため、両方を追体験することによって、視覚・聴覚・嗅覚からの情報によって、より戦時中の病院の様子を具体的に感じ、学ぶことができるものと考えています。

ニオイも戦争の証言の一つなのです。沖縄戦を体験した方々が生きている今だからこそ、再現することができました。本来は清潔であるはずの病院が、戦時になると真逆の様相になることを再現したニオイが教えてくれています。二度とこのようなニオイが満ちた病院が生まれないように、そして平和な未来を創り出すために過去をしっかりと学ぶため、多くの方に20号壕の見学と再現したニオイを体験してもらいたいと思っています。

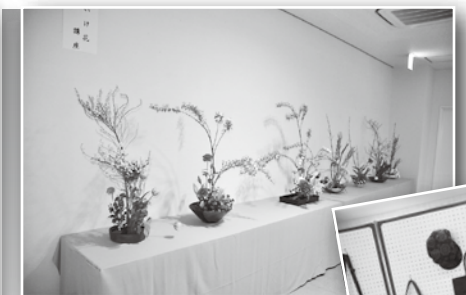


ニオイに顔をしかめる見学者

●お問い合わせ●
南風原文化センター ☎889-7399



新垣邦雄宮城自治公民館館長による発表



展示の部：いけ花講座



展示の部：袋物工芸講座

第37回生涯学習・公民館まつり 第8回自治公民館活動実践発表大会

自治公民館活動の集大成として、一年間の学習成果を発表する、第37回生涯学習・公民館まつり、第8回自治公民館活動実践発表大会が2月7・8日の両日、中央公民館で開催されました。

7日の第8回自治公民館活動実践発表大会では、新垣邦雄 宮城自治公民館館長をはじめ、4館長が発表を行いました。

7・8日の両日、サークル発表会も行われました。展示発表に加え、舞台では、7日に、各自治公民館サークル、8日に、中央公民館サークルの皆さんが、日頃の練習の成果を発表しました。また特別出演として、宮城県仙台市から震災のお礼を兼ねて、「仙台すずめ踊り」が披露されました。両日とも、たくさんの観客が訪れ、会場を沸かせました。



いえるじゅう小 (津嘉山自治会)



フラメンコサークル ドエンデ会



日舞サークル 友禅の会



南風原ダンススポーツによるタンゴ



仙台すずめ踊り (表小路10)



トリを飾った軽音楽サークル